

1・宮城県被災文化財等保全連絡会議

佐藤 憲幸 宮城県被災文化財等保全連絡会議 事務局／東北歴史博物館 学芸部 学芸班長

0. はじめに

宮城県被災文化財等保全連絡会議（以下 連絡会議）は平成 23 年 10 月 21 日、文化財レスキュー事業に関わった被災文化財等の一時保管施設、地元市町教育委員会、文化財関係団体等によって組織された。この連絡会議は行政や組織の枠組みを超えて県内の関係各機関が連携、協働し、被災文化財等の保全管理等を目的とした団体である。

以下では、今年度、連絡会議が行った活動のうち、複数機関の連携によって実施された活動を中心に報告する。

1. 活動概要

1-1 全体会議・幹事会の開催

構成機関の情報交換と被災資料に関する各種案件を協議するため、3 回の全体会議と 5 回の幹事会を開催した。今

年度は特に、被災ミュージアム再興事業との関わりによる各機関が保管する被災資料の修理に対し、連絡会議がどのように支援を行うか、そのプロセスの構築について幹事会において多くの時間を割き、図 1 のような手順を全体会議において示した。

各会議の開催日時、会場及び主な協議事項等は以下のとおりである。

【幹事会】

- ① 平成 24 年 4 月 25 日：宮城県美術館
 - ・今年度予想される活動
 - ・被災ミュージアム再興事業
- ② 平成 24 年 5 月 23 日：仙台市博物館
 - ・連絡会議が行うべき被災ミュージアム再興事業の整理
- ③ 平成 24 年 7 月 4 日：宮城県美術館
 - ・被災資料の修理支援のプロセス
 - ・監事の選任

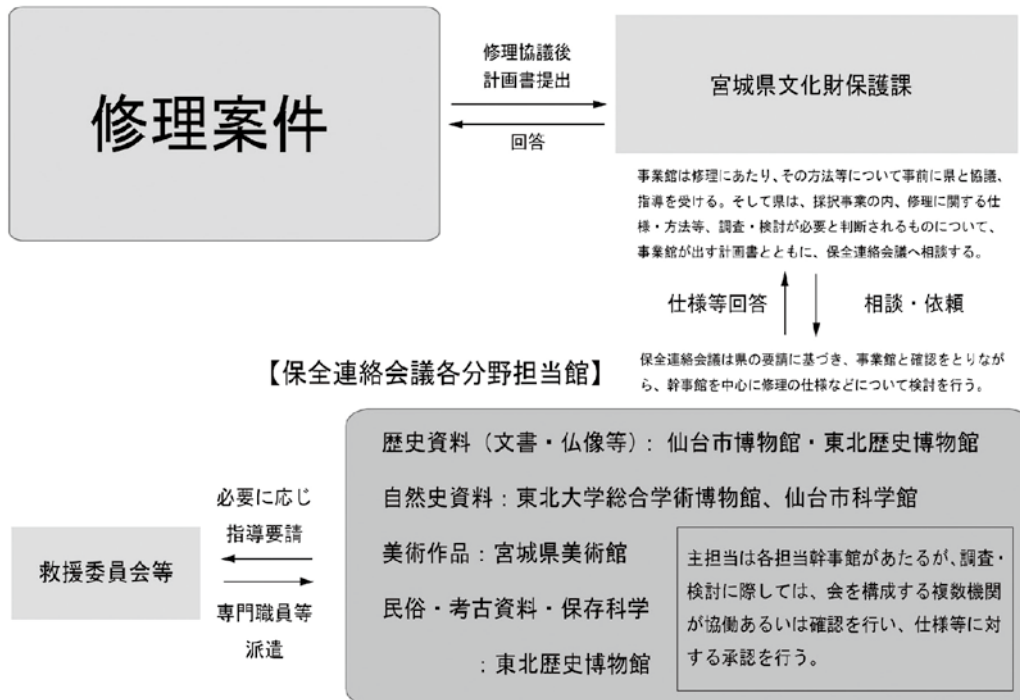


図1 被災資料修理における事業館と連絡会議との連携手順

- ④ 平成 24 年 8 月 22 日：仙台市博物館
 - ・巡回展示開催会場及び準備スケジュール
- ⑤ 平成 25 年 2 月 20 日：仙台市博物館
 - ・来年度以降の活動
 - ・要綱の改訂
 - ・寄付の取扱い

【全体会議】

- ① 平成 24 年 6 月 6 日：東北歴史博物館
 - ・今年度の活動
 - ・被災ミュージアム再興事業
 - ・一時保管施設及び保管資料等の状況報告と検討
- ② 平成 24 年 9 月 26 日：東北歴史博物館
 - ・巡回展
 - ・NPO 宮城歴史資料保全ネットワークとの連携による救出資料の整理、修理
 - ・県内水損資料の取扱い
- ③ 平成 25 年 3 月 13 日：東北歴史博物館
 - ・今年度の活動報告
 - ・来年度以降の活動
 - ・要項の改訂
 - ・平成 25 年度の再興事業

1-2 修理支援

被災資料等の修理に際し、専門的知識を必要とする案件については、宮城県文化財保護課からの依頼により、幹事館を中心とした各分野の担当館で修理仕様等の検討を行った。連携の手順、役割分担については、幹事会において協議し、図 1 のとおりとした。検討を行った資料は以下のとおりである。

- ① 東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館考古資料（東北歴史博物館）
- ② 多賀城市埋蔵文化財センター文書資料等（東北歴史博物館）
- ③ 白石市教育委員会考古資料等（東北歴史博物館）
- ④ 気仙沼市リアス・アーク美術館絵画資料（仙台市博物館）
- ⑤ 石巻市石巻文化センター歴史資料等（東北歴史博物館）
- ⑥ 石巻市雄勝硯伝統産業会館書画資料（宮城県美術館）
- ⑦ 亘理町立郷土資料館歴史資料等（東北歴史博物館）

（ ）は主担当館

これらのうち、津波等による損傷、劣化が著しく、県内専門職員のみでは対応が困難と判断された④⑤⑦について

は、宮城県教育委員会を經由し、10 月 30 日付文書で文化財保存修復学会に修理設計等のための調査を依頼した。調査には文化財保存修復学会から日高真吾氏、内田俊秀氏、半田正博氏の 3 名が派遣され、11 月 7 日にリアス・アーク美術館、11 月 8 日には東北歴史博物館において、資料を実見し、カビの発生や破損、癒着の状態確認等がなされた。これらの調査結果は、修理設計等の調査書が 11 月 29 日付け文書で文化財保護課課長宛てに送付され、その後、事務局から関係機関に連絡した。



文化財保存修復学会による資料調査

1-3 資料の救出・応急処置

- ① 岩沼市水損文書資料等のスクウェルチドライイング法による応急処置及びワークショップ（7 月 3・4 日 谷村博美氏・岩沼市教育委員会・気仙沼市教育委員会・東北歴史博物館）
- ② 東松島市薬師堂仏像・神像等の脱落部材接着等（10 月 22～24 日 東京文化財研究所・明珍素也氏・東北歴史博物館・宮城県教育委員会）
- ③ 石巻市雄勝硯伝統産業会館資料脱酸素封入作業（平成 25 年 1 月 17・18 日 宮城県美術館・仙台市博物館・東北歴史博物館・宮城県教育委員会・筑波大学・弘前大学・茨城県立歴史館 他）※事前調査を 11 月 27 日、12 月 6 日に実施。
- ④ 仙台市宮城縣護國神社昭忠碑移設作業（平成 25 年 2 月 4～9 日 東京文化財研究所・仙台市教育委員会・宮城県美術館・仙台市博物館 他）



谷村博美氏による紙資料応急処置ワークショップ

1-4 巡回展示

被災地を会場として、パネルを中心に映像、実物資料による巡回展『救え！故郷の証—つながれ！MIYAGI—』を開催した。本展は連絡会議構成機関の被災文化財救援・保全活動への取り組みと、県内のみならず国をはじめ、全国の多くの機関、企業、個人が被災した地域の文化財救出や一時保管、保全、修復活動に携わっていることを地元の方々に知っていただき、文化財復興活動に対する理解を深めてもらう事を目的とした展示である。開催期間及び会場は以下のとおりである。

〔開催期間〕① 10月18日～11月4日、② 11月6日～8日、③ 11月16日～28日、④ 12月4日～平成25年1月13日、⑤ 3月4日～3月15日

〔会場〕①東松島市奥松島縄文村歴史資料館、②仙台市せんだいメディアテーク、③気仙沼市役所ワンテン庁舎ロビー、④岩沼市ふるさと展示室、⑤宮城県庁1階県民ロビー



展示風景（岩沼市ふるさと展示室）

2. おわりに

連絡会議は、災害・緊急時の体制として県及び市町村教育委員会とミュージアムや文化財関係機関が連携した県内初の組織である。こうした連携は、県立及び都市部の拠点ミュージアムの専門性を活かして市町村の被災文化財等の諸問題に対応するだけでなく、地元教育委員会のネットワークを活かし、ミュージアム資料だけではなく、市町村や個人所蔵資料等の保全にもきめ細かい対応を可能とした。

震災から2年が経過し、宮城県慶長使節船ミュージアム（サン・ファン館）等、一部の保管施設においては既に所蔵者への返却も開始された。しかし、連絡会議の活動は、県内全ての被災文化財等が故郷へ帰る日まで継続される。また、今後の課題として、平時の組織から非常時の連携体制へスムーズな移行を図るシステムの構築においても、経験者として連絡会議が果たす役割は大きい。連絡会議の活動は、県内連携体制を模索する全国の各機関からも注目されており、そのモデルとなり得るよう、今後も実直に、適切に活動を展開していきたい。